

知見の囿炉裏端

聞くと見るでは大違い、そして見ると聞くでも大違い ——ミャンマーでの体験——



技術経営士の会 竹井 誠



先般、ビジネス人材向け教育関係の仕事で久しぶりにミャンマーを訪れました。

我が国では現在ミャンマーが直面している問題は、主に政治形態の対立や少数民族問題といったイデオロギーの対立と捉えられていると思います。実際、ニュースを聞いているとデモ、逮捕、テロ、爆撃、ジェノサイド、内戦状態といった内容が多いですね。そのため出国前は、かなり危険な状態なのではないかと心配して、初めて戦争特約付きの海外保険（言うまでもなく保険料は高い、しかも驚くほど）に入りました。

この保険のことはともかくとして、そのような所に行き、「創造的な企業経営とは」といった講義をしても、誰が耳を傾けてくれるのだろうか心配していました。ところが現地に入ってみると、少なくとも首都のヤンゴン、北部の第二の都市マンダレーとその近郊では、人々の生活はいたって平穏でした。何日間に亘って行われた講義の方も、受講生は皆毎日きちんと集まり、しかも皆熱心に学び、ワークショップでも盛んに議論をしていて、内心ホットしました。写真はそんな情景のスナップです。

ここまでの、「聞くと見るでは大違い」の部分で、この後が「見ると聞くでも大違い」の部分です。

このように、人口の集中する大都市での市民の生活は一見平穏に見えましたが、講義の場以外で、以前から親しくしている何人かのビジネスマンから本音の話を聞いてみると、事業の面からも、社会生活の面からも多くの問題を抱えていることが分かりました。

事業の面から見ると、産業基盤が極めて脆弱な状況になっているのです。

そうなる理由の一つは大量の人材流出です。ここ最近、若者を中心とする労働力の海外流出が極端に増えています。流出の大きな理由は失業とインフレですが、治安の悪化、さらには外貨獲得のための出稼ぎ振興の労働政策も火に油を注いでいるようです。

War Risks Coverage (戦争危険担保)	補償項目 A B	国名 ミャンマー、ヤンゴン・マンダレー
--------------------------------	-------------	------------------------

戦争特約付きの海外保険



次に挙げられるのが繊維や化学製品といった一次加工された原材料や工作用機械の不足です。現在、輸入そのものは禁止されていませんが、治安の悪化からトラックによる国境を越える地上輸送が実質的にストップしています。国境付近には多くの少数民族が住むため、テロや銃撃などが多くて危険なためです。これらの大部分を輸入に頼っているミャンマーでは、それらが入手できずに生産中止となった企業も多いことが分かりました。

大きな原因の最後は、資金繰り。現地通貨の下落、賃金高騰、インフレ、外貨不足、海外からの投資の激減などその理由は多様です。

こうしてみると、古典的な経営資源とされる「人、物、金」の全てに大きな問題があると言えるでしょう。各地で「物」が入手できず生産がストップして「人」が流失し、それが人材の質の低下や賃金高騰を招き、資金繰りに苦しみ廃業に追い込まれる、というような負のスパイラルを形成しているように思えます。このスパイラルに対して適切な手を打てるような経験豊富な管理者・経営者が少ないことも傷を大きくしているでしょう。このままでは、もともと強固とは言えない産業基盤が崩壊し、周辺国さらには日本も含む世界の安定にも影響しかねません。

一方、社会生活の面の大きな問題は、貧困層の増加による治安の悪化と、品不足による物価高騰が引き起こす社会不安です。

これら産業面と社会面の問題が国と国民に対して、いかにもボディブローのようにじわじわときいているのではないかと危惧します。体力を消耗した国に、強権国家が遠慮なく土足で踏み込んでくるという事例は、近代史の中でもあまた見られます。

このように、ことミャンマーに限らず、特に情報が十分に入手しにくい海外の状況については、ニュースを聞いているだけでは、得てして偏った面しか理解できないことが多いことと、現地に入っても表向きだけを見たのでは実情を理解できないことがあるのを実感しました。そのようなことは当たり前のことのように聞こえるかも知れませんが、翻って日常においてさえも、他人の言うことだけを信じて、あるいは上っ面を見ただけで、偏った、時として間違った判断をしているのではないかと、反省することしきりです。

なお、ミャンマーにおけるこのような状況を解説し、それに対して我々は工夫しながら支援していくべきといった提言を投稿したところ、3月5日の日経新聞の中の経済教室のページの左上にある「私見・卓見」の欄にそれが掲載されました。もしご興味があれば、一読ください。